

目 次

頁

山梨県文学館協議会資料

山梨県文学館協議会名簿	1
山梨県立文学館活動報告（概要）	2
観覧者数の推移	3
施設利用状況	4
平成22年度 企画展等一覧	6
平成23年度 企画展等予定一覧	7
平成22年度 教育普及事業の執行状況について	8
平成23年度 教育普及事業予定について	13
平成22年度 資料情報課事業一覧	15
平成23年度 資料情報課事業予定について	17

平成23年3月10日（木）

山 梨 県 立 文 学 館

山梨県文学館協議会委員名簿

任期：平成21年9月29日～平成23年9月28日

区分	氏名	分野	選考区分	勤務先等
委嘱	増坪 愛子 ますつぼ あいこ	社会教育関係	県市町村教育委員会連合会代表	甲斐市教育委員長職務代理者
"	赤池 あずま あかいけ あずま	社会教育関係	県社会教育委員代表	山梨県社会教育委員
"	乙黒 幸江 おとべろ ゆきえ	家庭教育関係	児童教育施設代表	前中央市立玉穂生涯学習館館長
"	宮崎 吉宏 みやざき よしひろ	学識経験者	山梨文芸協会代表	山梨文芸協会事務局長
"	向山 文人 むこうやま ふみと	学識経験者	報道関係	山梨日日新聞社論説委員長
"	古屋 未知男 ふるや みちお	学識経験者	報道関係	テレビ山梨放送本部・報道制作局長
"	宮司 幸雄 みやじ ゆきお	学識経験者	報道関係	NHK甲府放送局副局長
"	橋本 朝生 はしもと あさお	学識経験者	山梨大学関係	山梨大学教授
"	石田 千尋 いしだ ちひろ	学識経験者	山梨英和大学関係	山梨英和大学教授
"	数野 強 かずの つよし	学識経験者	山梨ことぶき勸学院学院関係	山梨ことぶき勸学院学院長
"	小野 正 おの だだし	学識経験者	公募	顧問事務所経営・元風林火山博統轄店長
"	水垣 彩 みずがき あや	学識経験者	公募	サンニチ印刷コンサルティング事業室
任命	益田 洋美 ますだ ひろみ	学校教育関係	県公立小中学校長会代表	甲州市井尻小学校校長
"	辻 泰 つじ やすし	学校教育関係	県高等学校長協会代表	県立富士見支援学校校長

山梨県立文学館活動報告（概要）

本館に求められるもの

県民の価値観の多様化にともない、心の豊かさや生きがいを求めての文化活動に対する関心も高まっている。

このようななか、県民文化の発展向上に寄与することを目的として設置されている山梨県立文学館には、県民に広く文学に関する知識・教養を提供するうえで、次の4つの機能が求められている。

【展示／見る】 文学史に残る作家と作品を紹介する企画展と山梨県出身ゆかりの文学者を展示する常設展示の一層の充実をはかる。

【教育普及／学ぶ・創る】 生涯学習、教育課程における学習など、多様な学習機会の提供、本県文学、創作活動の充実、発展、その場の提供。

【資料情報／収集・保存・公開】 山梨県にゆかりのある作家の作品(資料)を収集保存し、活用する。

【付加価値・魅力／たのしみ】 本来の文学館機能に加え、付加価値を充実にさせ、より魅力ある「憩いの場」の創造と提供。

◎ 平成22年度は、文学館開館20周年リニューアールオープンを契機に、さらに魅力ある展示を実施し、情報発信を行ってきた。

平成22年度の活動

【展示／見る】(魅力ある展示へ)

開館20周年リニューアールオープンを契機に魅力ある展示を展開

〈常設展〉年四回展示替え ①デビューの頃 4/17～6/25②こどもの風景 6/26～9/30

③映画と舞台になった作品 10/1～12/26④友情の手紙 1/2～3/18

第1室 山梨の文学風土(甲斐のうた) 樋口一葉(朗読コーナー)

第2室 山梨出身ゆかりの文学者たち

井伏鱒二・太宰治・檀一雄・山本周五郎・深沢七郎・山崎方代 21作家のコーナー

第3室 芥川龍之介 生涯(誕生・少年時代・作家として・晩年) 書画・俳句・山梨との関わり

朗読コーナー

第4室 飯田蛇笏・飯田龍太記念室 人生をたどって 季節毎の展示替え

第5室 前期(9月まで) 小説・評論・随筆・翻訳・ジャーナリズム・戯曲・脚本・童話・童謡

後記(3月まで) 詩・短歌・俳句・川柳・漢詩

〈収蔵品展〉 年度収蔵品資料を中心に展示紹介(年度末) 1/19～3/27

〈企画展〉 春「山崎方代展 右左口はわが帰る村」 5/1～6/27

秋「井伏鱒二と飯田龍太往復書簡その40年」展 9/18～11/23

〈夏休み展示〉 県立美術館・文学館共同特別展「くじらぐもからチツクタクまで」 7/25～8/29

【教育普及／学ぶ・創る】(文学に親しみ、文学をたのしみ、考える機会の提供)

社会教育、学校教育と連携をはかりつつ、年間を通じて、文学に触れ、味わい、楽しみ、考えることのできる機会を提供する。美術館周辺校との連携(新田小児童による樋口一葉コーナーでの文学

解説)

〈活動内容〉

春秋の企画展関連講演会・朗読会・座談会・講座・教師のための学習会 文学散歩2回 夏の特設展

関連講演会・講座 年間文学講座 文学のつどい講演会 名作映画鑑賞会 朗読鑑賞会 読書会

親子ほのぼの朗読会 女性のための短歌教室 百人一首教室 チャレンジ文学館 夏休みチャレンジ

ジ文学館 ジュニアインタビューシツク 文学解説、各種講師派遣事業 館長トーク 夏の共同特別展

関連感想文募集展示 秋の企画展関連「心の友におくる三行詩」募集・表彰・展示

〈やまなし文学賞〉 小説・研究評論2部門で実施予定 11月末締め切り H23年3月1日発表

〈やまなし文学賞〉 小説・研究評論2部門で実施予定 11月末締め切り H23年3月1日発表

【資料情報／収集・保存・公開】(資料の保存と公開)

・資料を手に取り文学者を身近に感じることができると提供○閲覧室資料紹介・「明星」創刊1

10周年・親子で読む名作・井伏鱒二の世界・新田次郎一死後三十年一

〇命日にちなんだ資料紹介・ナビ忌・桜桃忌・河童忌・蛇笏忌・一葉忌・周五郎忌

〇書庫見学 6/26(38人) 11/20(57人)

【付加価値魅力／楽しむ】(魅力ある文学館)

協力会員による企画展・常設展の解説ボランティアを実施・育成(延べ18名 春7名 秋4名)

芸術の森公園アトツプナー(SPSやまなし自主事業)ミュージアム甲斐in(会員)募集事業

JR・県観光機構との連携等による積極的な広報

平成23年度の活動

【展示／見る】(魅力ある展示へ)

常に新しい資料の常設展と魅力あるテーマの企画展を展開

〈常設展〉年四回展示替え ①作家の愛用品 4/1～6/26②作家と家族 6/28～10/2

③八木義徳生誕百年 10/4～12/25④檀一雄生誕百年 12/27～3/25

第1室 山梨の文学風土(甲斐のうた) 樋口一葉(朗読コーナー)

第2室 山梨出身ゆかりの文学者たち

井伏鱒二・太宰治・檀一雄・山本周五郎・深沢七郎・山崎方代 21作家のコーナー

第3室 芥川龍之介 生涯(誕生・少年時代・作家として・晩年) 書画・俳句・山梨との関わり

朗読コーナー

第4室 飯田蛇笏・飯田龍太記念室 人生をたどって 季節毎の展示替え

第5室 前期(9月まで) 小説・評論・随筆・翻訳・ジャーナリズム・戯曲・脚本・童話・童謡

後記(3月まで) 詩・短歌・俳句・川柳・漢詩

〈収蔵品展〉 年度収蔵品資料を中心に展示紹介(年度末) 2/2～3/21

〈企画展〉 春「文芸映画のたのしみ」 4/29～6/19 秋「深沢七郎展」 9/10～11/6

〈特設展〉 手紙を書こう 7/23～8/28(夏休み展示) 樋口一葉故郷への手紙 11/19～12/25

【教育普及／学ぶ・創る】(文学に親しみ、文学をたのしみ、考える機会の提供)

社会教育、学校教育と連携をはかりつつ、年間を通じて、文学に触れ、味わい、楽しみ、考えることのできる機会を提供する。

〈活動内容〉

春秋の企画展関連講演会・朗読会・座談会・講座・教師のための学習会 文学散歩2回 年間文学

講座 文学創作教室 子どもワークショップ朗読講演会 お話の森朗読会 学習ガイド作成 名作

映画鑑賞会 読書会 チャレンジ文学館 夏休みチャレンジ文学館 ジュニアインタビューシツク

文学解説、各種講師派遣事業 館長トーク

〈やまなし文学賞〉 小説・研究評論2部門で実施予定 11月末締め切り H24年3月初旬発表

〈やまなし文学賞〉 小説・研究評論2部門で実施予定 11月末締め切り H24年3月初旬発表

【資料情報／収集・保存・公開】(資料の保存と公開)

・資料を手に取り文学者を身近に感じることができると提供 ○閲覧室資料紹介・映画に魅せら

れた作家たち・文豪からのおくりもの一子どもたちへー・深沢七郎の世界・芥川賞、直木賞と山梨

の作家たち

〇文学者の誕生日にちなんだ資料紹介・飯田蛇笏・山本周五郎・飯田龍太・辻邦生・山崎方代

・中村星湖・芥川龍之介

〇書庫見学 6/18 11/20

【付加価値魅力／楽しむ】(魅力ある文学館)

協力会員による常設展の解説ボランティアを育成・実施(延べ6名を予定)

芸術の森公園アトツプナー(SPSやまなし自主事業)ミュージアム甲斐in(会員)募集事業

JR・県観光機構との連携等による積極的な広報

文学館の観覧者数の推移について

常設展及び企画展の観覧者の状況は、次のとおりである。

年度	開館日数	常設展観覧者数	企画展観覧者数	合計
H1	34	10,008	42,544	52,552
2	298	79,124	20,233	99,357
3	296	59,616	22,059	81,675
4	292	46,945	21,047	67,992
5	291	41,812	8,271	50,083
6	290	44,279	29,874	74,153
7	294	35,409	14,885	50,294
8	294	31,536	16,804	48,340
9	291	29,730	8,205	37,935
10	293	32,209	15,433	47,642
11	296	20,652	9,832	30,484
12	299	19,258	7,786	27,044
13	225	17,901	10,259	28,160
14	301	19,487	8,805	28,292
15	302	18,641	8,535	27,176
16	302	18,117	12,790	30,907
17	303	15,008	7,232	22,240
18	311	16,084	7,116	23,200
19	311	19,676	10,849	30,525
20	307	14,908	9,416	24,324
21	295	19,374	13,993	33,367
22	256	19,307	18,566	37,873
計	5,925	629,081	324,534	953,615

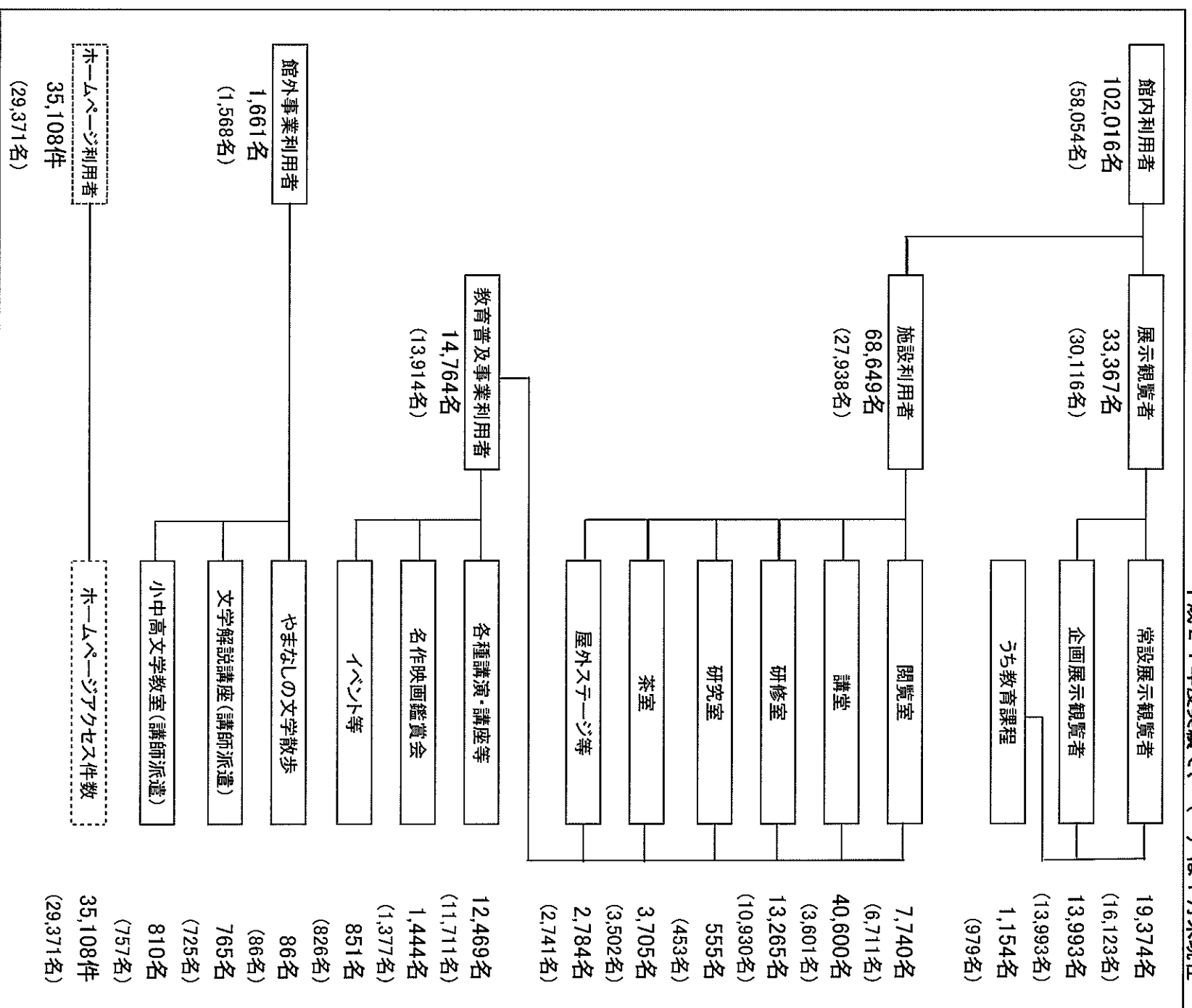
平成22年度常設展観覧者数

月	開館日数	観覧者数	1日平均
4	27	1,582	59
5	26	1,574	61
6	26	1,468	56
7	26	2,243	86
8	27	5,431	201
9	26	1,075	41
10	31	1,586	51
11	24	3,040	127
12	23	640	28
1	20	668	33
2			
3			
計	256	19,307	75

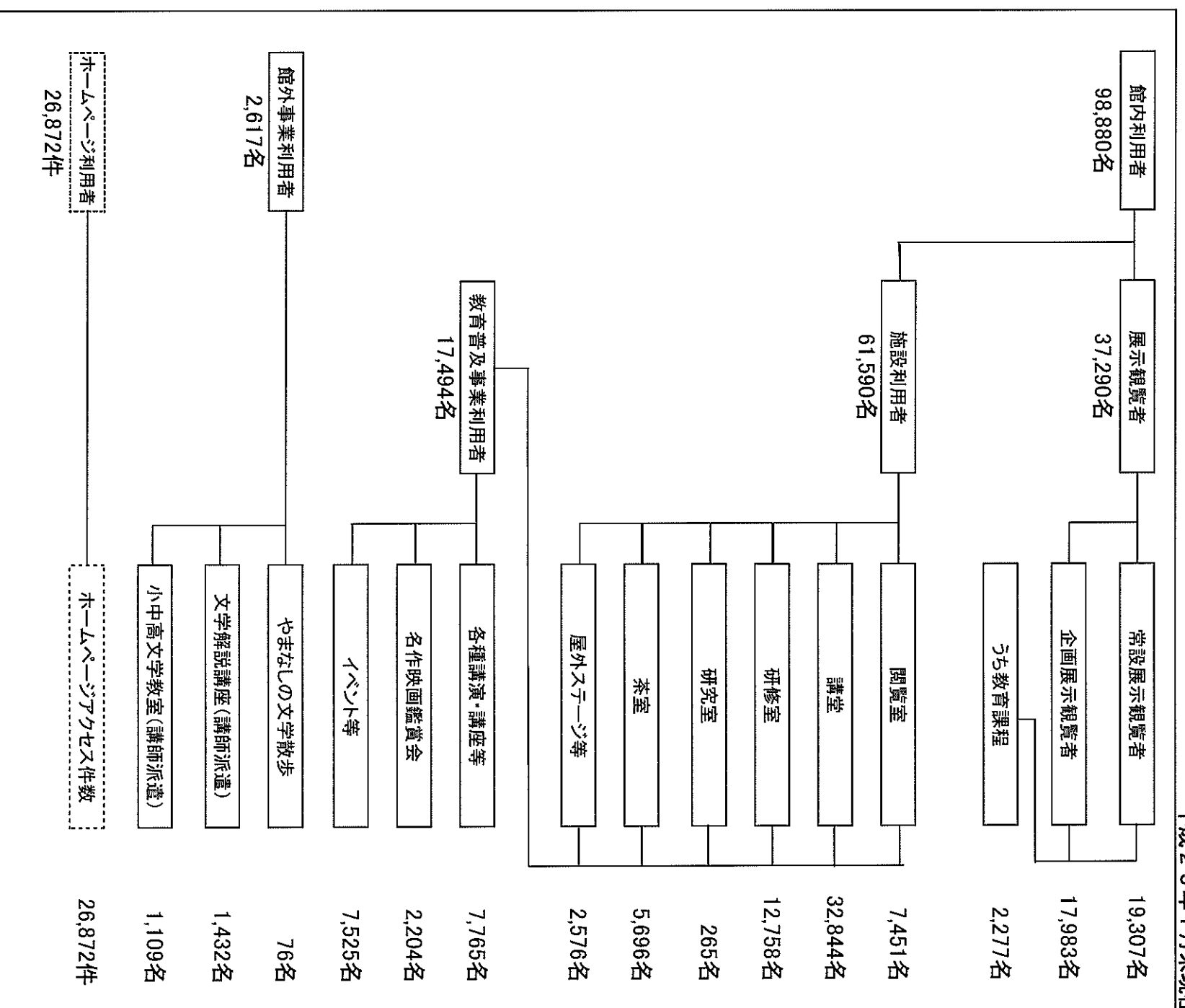
文学館「利用者」の状況

○文学館の利用者とは、文学館の施設、提供するサービスを利用した者および文学館の事業・活動に参加したすべての対象者をいいます。

平成21年度実績で、()は1月末現在



平成23年1月末現在

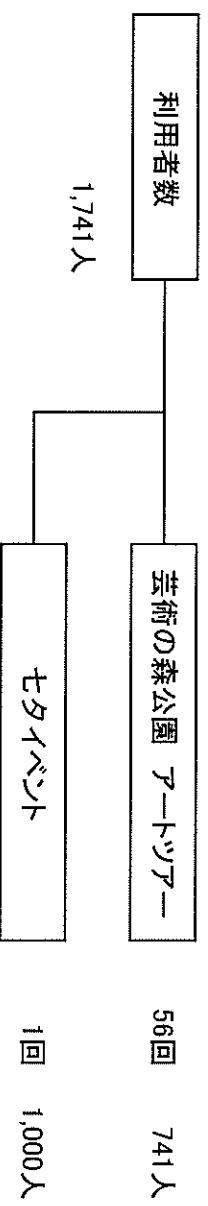


指定管理者自主事業における利用者の状況

H23.1.31現在 指定管理者
SPS・桔梗屋グループ

○指定管理者自主事業における施設利用者とは、指定管理者が自主事業として実施した事業のうち、美術館・文学館の従来の施設利用者実績集計項目に加算していないものを指す。

○ここに示す利用者数は、平成22年4月1日～平成23年1月31日の実績である。



○芸術の森公園 アートツアーとは、芸術の森に設置してある彫刻を希望者に解説するツアー。

○セタイイベントとは、美術館・文学館のロビーにタペストリー(織物)をつるし、来館者に願いごとを書いた短冊を貼り付けてもらうイベント。

その他、指定管理者が平成22年度に行った事業

クリスマスコンサート	100人(美術館 総合実習室利用者及びイベント参加者数の内数)
ニュー・イヤークンサート	154人(美術館 総合実習室利用者及びイベント参加者数の内数)
呈茶	1,846人(文学館 茶室の利用者人数の内数)
コンサート・ワークショップ H22年〇月 池上秀樹	250人(美術館 ロビーコンサート及びワークショップ参加者数の内数)
トークショー H23年2月 ウェンディ甲府 萩原太選手	476人(文学館 講堂利用者数の内数)
2,826人	

平成22年度 企画展・特設展など

展覧会名	会期	日数	観覧者数	内 容	備 考
企画展 1 山崎方代展 右左口はわが帰る村	平成22年5月1日(土) ～6月27日(日)	50日間	3,589人	東八代郡右左口村(現・甲府市)生まれの歌人、山崎方代(やまざき ほうだい、1914～1985)は、口語調の平易な文体に明るい哀調を帯びた独自の歌の世界を展開しました。その作品は、現代の歌壇にも大きな衝撃をあたえ続けています。展覧会では、味わい深い書、歌稿、書簡、写真、遺品など約150点の資料により、歿後25年を迎える山崎方代の生涯と短歌の魅力に迫りました。	自主企画
美術館・文学館共同特別展 2 くじらぐもからチツクタツクまで —小学校国語教科書にのつた思い出のお話原画展—	平成22年7月25日(土) ～8月29日(日)	33日間	10,495人	昭和40年から現在までの小学校国語の教科書に載った作品の中から、使用頻度の高い約20作品をえらび、その挿絵原画約150点を紹介しました。県立美術館と文学館との共同特別展とし、美術館を第一会場(小学校低学年・中学年の作品)、文学館を第二会場(小学校高学年)として、親子で楽しめる展示を開催しました。	実行委員会で開催 * これまで常設展の一環として行ってきた「特設展」を、美術館との共同特別展として開催した。
企画展 3 井伏鱒二と飯田龍太 往復書簡 その四十年	平成22年9月18日(土) ～11月23日(火)	61日間	3,899人	小説家井伏鱒二(1898～1993)と、山梨県東八代郡境川村(現 笛吹市境川町)出身の俳人飯田龍太(1920～2007)は、1952(昭和27)年、水原秋櫻子の紹介で出会って以来、井伏が亡くなるまでの約40年にわたって親交を結びました。2008(平成20)年に文学館が開催した企画展「飯田龍太展」の調査で明らかになった400通に及ぶ往復書簡を中心に、ジャンルを超えて結ばれた二人の交友を紹介しました。	自主企画
収蔵品展 直筆の魅力 4 中里介山・斎藤茂吉・飯田蛇笏・太宰治・檀一雄・山崎方代ほか	平成23年1月19日(水) ～3月27日(日)	59日間	-	平成22年度に新たに収蔵した資料を中心に、文学館収蔵資料の名品を公開しています。	自主企画・観覧料無料

平成23年度 企画展・特設展など(予定)

展覧会名	会期	日数	料金	内 容	備 考
1 企画展 文芸映画のたのしみ 谷崎潤一郎・泉鏡花・川端 康成・三島由紀夫…	平成23年4月29日(金) ～6月19日(日)	45日間	一般 600(480) 大・高生 400(320) 中・小生 250(200)	日本映画の100年以上にわたる歴史を振り返ると、森鷗外、夏目漱石、樋口一葉、山本周五郎などの小説を原作とした映画が数多く制作され、多くの人々に親しまれてきました。その一方、谷崎潤一郎、川端康成など、映画へ強い関心を示した作家も少なくなく、映像という表現媒体に強い関心を持ち、刺激や着想を得てきました。本展では、東京都在住の畑三郎氏の、映画のポスター、チラシ、スチール写真などのコレクションを軸に、原稿などの文学資料を併せ、文学と映画の深い関わり、映画に取り込まれた文学の魅力をご紹介します。	自主企画
2 夏の特設展 夏の手紙をこう—作家の手紙を お手本に	平成23年7月23日(土) ～8月28日(日)	33日間	常設展 観覧料	文学者たちが残した書簡は、その目的や相手によって様々な工夫の跡がみられます。本展では、館蔵の資料から、御礼を述べる手紙、旅先からの手紙などそれぞれの書き方の特徴をわかりやすく紹介、手紙を書くことの楽しさ、面白さを伝えます。夏休み中の子供向け展示と位置づけ、ワークショップも開催します。	自主企画 ・常設展の一環として開催
3 企画展 深沢七郎展(仮称)	平成23年9月10日(土) ～11月6日(日)	53日間	一般 600(480) 大・高生 400(320) 中・小生 250(200)	深沢七郎は、1914(大正3)年、山梨県東八代郡石和町(現 笛吹市)に生まれ、県立日川中学卒業後、ギタリストとして東京の日劇ミュージックホールなどに出演する一方、小説の創作を始め、1956(昭和31)年、姥捨山伝説を題材とし、山梨県境川町大黒坂の景色を想定した小説「榎山節考」で、第1回「中央公論」新人賞を受賞。選考委員の三島由紀夫や正宗白鳥の絶賛を受けました。特異な作風とともに、実生活の変転と意表をつく行動がマスコミの注目を集め、1987(昭和62)年8月、73歳で亡くなりました。本展は、現在も多くの読者の関心を集める深沢七郎の初めての本格的な企画展として、その生涯と作品の世界を紹介します。	自主企画
4 秋の特設展 樋口一葉 故郷への手紙	平成23年11月19日(土) ～12月25日(日)	32日間	常設展 観覧料	樋口一葉が両親の故郷である山梨県甲州市の祖母や従弟たちに送った手紙を中心に紹介します。11月23日の一葉忌に合わせ、県民の日も挟んでの公開です。	自主企画 ・常設展の一環として開催
5 平成23年度 新収蔵品展	平成24年2月2日(木) ～3月21日(水)	43日間	観覧料 無料	平成23年度に新たに収蔵した資料を中心に、文学館収蔵資料の名品を公開します。	自主企画 ・観覧料無料

【平成22年度 教育普及事業について】

1 企画展

(1) 春の企画展・関連事業

ア 企画展示

「山崎方代展 右左口はわか帰る村」
 会期 平成22年5月1日(土)～6月27日(日) 50日間
 観覧者数 3589人 (1日平均 72人)

イ 企画展関連事業

月日	事業名	演題	講師	参加者数
5/15 (土)	講演会	「方代の歌の魅力」	馬場あき子(歌人)	320人
5/29 (土)	文学講座	「方代と故郷右左口」	中野和子(当館学芸員)	101人
5/30 (日)	短歌教室	「はじめての短歌教室」	河野小百合(歌人)	45人
6/6 (日)	座談会	「方代短歌を味わう」	来嶋靖生(歌人) 三枝浩樹(歌人) 大下一真(歌人)「方代研究」編集室	189人
6/3 (木)		教師のための学習会	中野和子(当館学芸員)	23人

(2) 秋の企画展・関連事業

ア 企画展示

「井伏鱒二と飯田龍太 往復書簡 その四十年」
 会期 平成22年9月18日(土)～11月23日(火) 61日間
 観覧者数 3899人(1日平均64人)

イ 企画展関連事業

月日	事業名	演題	講師	参加者数
10/3 (日)	講演会	「思い出の井伏鱒二・飯田龍太」 「井伏鱒二の甲州」	川島勝(元講談社編集者) 東郷克美(早稲田大学名誉教授)	96人
10/23 (土)	講演・対談	「甲州・龍太山脈」 「井伏山甲州口」	廣瀬直人(俳人・「白露」主宰) 近藤信行(当館館長)	150人
10/31 (日)	文学講座	「手紙でたどる文芸交流 井伏鱒二と飯田龍太」	高室有子(当館学芸員)	58人
10/19 (水)		教師のための学習会	高室有子(当館学芸員)	18人
10/17 10/30		井伏鱒二と飯田龍太 ゆかりの地をめぐる文学散歩	NPO協働事業	76人

「心の友に贈る三行詩」募集

応募総数 982点

2 常設展・特設展

(1) 常設展

第1室～第4室

作家の横顔—デビューの頃 4/17(土)～6/25(金)
 作家の横顔—子どもの風景 6/26(土)～9/30(木)
 作家の横顔—映画と舞台になった作品 10/1(金)～12/26(日)
 作家の横顔—友情の手紙 1/2(日)～3/18(金)
 第5室

前期49名 小説・評論・翻訳・ジャーナリズム

戯曲・脚本・童話・童謡

4/30(金)～8/29(日)

後期55名 詩・歌人・俳句・川柳・漢詩

9/17(金)～3/31(木)

(2) 美術館との共同特別展

「くじらぐもからチツクタクまで—小学校国語教科書にのった思い出のお話原画展」

ア 会期 平成22年7月25日(土)～8月29日(日) 33日間

観覧者数 10495人(1日平均 318人)

イ 特設展関連事業

月日	事業名	講師	参加者数
7/25 (日)	オーブニング記念講演会 「くじらぐもといっしょに」	中川季枝子(児童文学作家)	303人
7/31 (土)	おとなを休もう「ごんぎつね」	岡村太郎(山梨大学附属小学校教諭)	40人
8/1 (日)	教科書ができるまで&デジタル教科書	飯田順子・森下耕治(光村図書出版株式会社)	70人
8/8 (日)	子ども映画会 「ごんぎつね」他		263人
会期中毎日	夢のうろこで龍をつくらう		1980人

「小学校国語教科書にのった思い出いっばいのお話の感想文」ロビー展示 応募総数 512点

(3) 収蔵品展「直筆の魅力」

会期 平成23年1月19日(水)～3月27日(日) 59日間
 観覧者数 人(1日平均 人)

3 教育普及事業 (企画展・特設展関係を除く)

(1) 年間文学講座

期 間	事業名	演題	講師 (職名)	参加者数
5/12	文学講座1 研修室 芭蕉を読む 水曜日 14:00~15:30		両角倉一 (山梨県立大学名誉教授)	697人 (8回)
6/16				
7/14				
8/11				
9/22				
10/20				
11/17				
12/15				
5/1	文学講座2 研修室 芥川文学における〈虚構〉と〈現実〉 土曜日 14:00~15:30		小菅健一 (山梨英和大学教授)	744人 (8回)
6/5				
7/3				
8/7				
9/11				
10/9				
11/20				
12/11				
6/24	文学講座3 研修室 山梨の文学 木曜日 14:00~15:10		文学館職員	158人 (3回)
10/14				
12/2				

(2) 文学のつどい

期 日	演 題	講師 (職名)	参加者数
6/13 (日)	「山梨ゆかりの幕末期江戸文人たち —友野燮典、中村敬宇、森田桂園のことなど」 「市場のなかの文学—菊池寛と金子洋文—」	揖斐高 (成蹊大学文学部教授) 紅野謙介 (日本大学文理学部教授)	43人

(3) 名作映画鑑賞会

月 日	題 名	原 作 者	参加者数
4/18 (日)	「小島の春」	原作 小川正子 監督 豊田四郎	214人
6/27 (日)	「それから」	原作 夏目漱石 監督 森田芳光	398人
8/8 (日)	特設展関連カラーアニメ「ごんぎつね」 「怪歌芳—物語」	原作 新美南吉 原作 小泉八雲	263人
9/5 (日)	「故郷」	原作 山田洋次 監督 山田洋次	313人
月 日	題 名	原 作 者	参加者数
10/24 (日)	「赤ひげ」	原作 山本周五郎 監督 黒澤明	246人
11/28 (日)	「炎上」	原作 三島由紀夫 監督 市川崑	368人
1/30 (日)	「それから」再上映	原作 夏目漱石 監督 森田芳光	406人
3/13 (日)	子ども映画会カラーアニメ 「笠じぞう」「猫の事務所」	原作 宮澤賢治	

(4) 文芸教室

月 日	事 業 名	講 師	参加者数
1/8午前 (土)	百人一首教室1	清水 章子 (竜王かるた会会長)	42人
1/8午後 (土)	百人一首教室2	清水 章子 (竜王かるた会会長)	67人
2/5 (土)	女性のための短歌教室1	川崎 勝信 (富士短歌会代表)	30人
2/13 (日)	女性のための短歌教室2	川崎 勝信 (富士短歌会代表)	30人

(5) 読書会

月 日	著 者	作 品 名	参加者数
5/2	山崎方代	「青じその花」	109人 (9回)
6/19	大塚治	「斜陽」	
7/18	芥川龍之介	「侏儒の言葉・西方の人」	
8/28	村上春樹	「神のこどもたちはみな踊る」	
9/19	深沢七郎	「言わなければよかったのに日記」	
10/16	井伏鱒二	「山椒魚」「へんろう宿」「掛持ち」	
11/14	樋口一葉	「十三夜」「うつせみ」	
12/12	保坂和志	「フレーションング」	
1/29	山本周五郎	「五辨の椿」	
2/20	林真理子	「初夜」	

(6) 親子ほのほの朗読会 (素心菫)

開催日	題 材 名	講 師	参加者数
6/12 (土)	「山崎方代のうた」「なぞなぞあそび」 狂言えほん「かたつむり」 ことばあそび「きりなしうた」 スライド朗読「あおよ かえってこい」	塩山やまびご会	30人
8/28 (土)	「にはんごであそぼ」「ごん狐」 「スイミー」「一つの花」	溝口朗読サークル	74人
11/6 (土)	飯田龍太の俳句など「グッドモーニング」 「森のお店やさん」より「ほけつとや①②③」 大型絵本「からすのパンやさん」「？」の時間	朗読の会すずらん	52人

(7) 朗読鑑賞会

開催日	内 容	出 演	参加者数
8/22 (土)	朗読劇で文学に親しもう「オツベルと象」 「注文の多い料理店」「よだかの星」	劇団芸協	225人

(8) チャレンジ・夏休みチャレンジ文学館 (4月~1月31日)

幼児	11人	小学生	1075人
中学生	1251人	高校生	22人
大人 (大学生)	62人	合 計	2421人

(9) ジュニアインターンシップ (職場体験学習)

7月28日~30日までの3日間	学芸員実習	7月6日~11日までの6日間		
高等学校生	4名	大学生	4名	
8月3日(1日)と10月21日(1日)	中学生	11名	合 計	19名

(10) 文学解説・各種講師派遣事業（4月～1月31日）

ア	文学解説・教室		
	小学校	16校	
	中学校	29校	
	適応教室	2団体	
	高等学校	12校	
	大学	4校	小中高大2800人
	一般	24団体	一般 389人

イ	文学解説・講師派遣		
	小学校	1校	
	中学校	1校	
	高等学校	3校	
	一般	18団体	小中高 1109人
			一般 1432人

4 やまなし文学賞

やまなし文学賞は、平成4年4月、山梨県にゆかりの深い樋口一葉の生誕120年を記念して制定されました。山梨県の文化振興をはかり、日本文化発展の一助として、小説と、研究・評論の2部門が設けてあります。

選考委員 小 説 部 門： 坂上 弘・津島佑子
研究・評論部門： 菅野昭正・高田 衛・十川信介

23年2月15日 研究・評論部門選考会

やまなし文学賞

戸松 泉 『複数のテクストへ 樋口一葉と草稿研究』（2010年3月 翰林書房）
齋藤 希史 『漢文スタイル』（2010年4月 羽鳥書店）

2月23日 小説部門選考会

やまなし文学賞 菅野 晶 『真空管式』
やまなし文学賞佳作 井野巻志子 『嵐の行く先』
やまなし文学賞佳作 冬川文子 『お魚にエサをあげてね』

3月16日 表彰式

6月 第19回小説部門受賞作単行本刊行

5 その他

共催事業

5/22（土） NHK 朗読シアター 350人
6/19（土） NHK ラジオ文芸選評 259人

過去5年間教育普及事業 実施状況

一般対象	H17		H18		H19		H20		H21		H22 H23.1.31	
	回数	人数	回数	人数	回数	人数	回数	人数	回数	人数	回数	人数
企画展関連 講演会・講座	回数	5	6	8	9	14	11					
	人数	770	1,192	828	1,534	2,197	1,076					
	平均人数	154	199	104	171	157	98					
企画展 ギャラリートーク	回数		48	30	47	49						
	人数		1,163	359	740	1,178	900					
	平均人数		25	12	16	23	19					
年間文学講座I・II 古典文学・近代文学	回数	24	16	16	16	16	16					
	人数	805	1,285	1,311	1,252	1,332	1,441					
	平均人数	34	81	82	79	84	91					
年間文学講座Ⅲ (館職員による)	回数	7	8	6	6	6	3					
	人数	468	481	302	312	375	158					
	平均人数	67	61	51	52	63	53					
文学のつどい	回数	1	1	1	1	1	1					
	人数	152	178	63	50	60	43					
	平均人数	152	178	63	50	60	43					
朗読鑑賞会	回数	3	3	2	1	1	1					
	人数	985	647	592	230	500	225					
	平均人数	329	216	296	230	500	225					
映画鑑賞会	回数	10	6	6	6	5	6					
	人数	1,161	1,405	1,338	1,390	1,203	1,941					
	平均人数	117	235	223	232	241	324					
文学散歩	回数	2	2	2	2	2	2					
	人数	88	88	89	89	86	76					
	平均人数	44	44	45	45	43	38					
読書会	回数		10	10	10	10	9					
	人数		114	120	113	103	109					
	平均人数		12	12	12	11	13					
一般団体 展示解説 文学解説	回数		21	62	43	49	24					
	人数		526	5,329	895	723	389					
一般団体 山梨の文学 講師派遣事業	回数	11	13	10	16	17	18					
	人数	475	777	902	597	765	1,432					
小中高生対象	回数	2	2	2	2	2	2					
	人数	216	377	303	349	241	263					
	平均人数	108	189	152	175	121	263					
子どもワークショップ (朗読教室・詩作教室・俳 句教室・他)	回数	5	5	2	1	1	2					
	人数	127	78	44	35	30	110					
	平均人数	26	16	22	35	30	55					
子どものための朗読等 親子ほのぼの朗読会	回数	4	4	3	3	3	3					
	人数	254	226	180	153	201	156					
	平均人数	64	57	60	51	67	52					
小・中・高等学校・大学 展示観覧・解説	回数	43	38	31	31	44	63					
	人数	3,117	1,279	1,790	994	2,243	2,932					
	平均人数	8	8	7	3	8	5					
小・中・高等学校 講師派遣事業	回数											
	人数											
	平均人数											
小中高生・一般対象	回数											
	人数											
	平均人数											
俳句創作プログラム (短歌教室・百人一首教室)	回数											
	人数											
	平均人数											
チャレンジ文学館 (夏休みチャレンジ文学館)	回数											
	人数											
	平均人数											
合計	回数											
	人数											
	平均人数											

【平成23年度 教育事業について】

1 企画展

(1) 春の企画展・関連事業

ア 企画展示

「文芸映画のたのしみ 谷崎潤一郎・泉鏡花・川端康成・三島由紀夫・・・」
会期 平成23年4月29日(金)～6月19日(日) 45日間

月日	事業名	演題	講師	備考
5/7 (土)	企画展関連事業			
	1 企画展関連事業			
			講師 小沢昭一(俳優) 聞き手 遠藤三郎 (元映画監督)	
5/22 (日)	文学講座「映画館が教室だった」 文学講座「映画に魅せられた作家たち」		畑 三郎(映画史研究者) 中野和子(当館学芸員)	
			*この他、企画展関連映画5本を上映(名作映画鑑賞会で再掲)	

(2) 秋の企画展・関連事業

ア 企画展示

「深沢七郎展(仮称)」

会期 平成23年9月10日(土)～11月6日(日) 53日間
企画展関連事業
講演会、文学講座、朗読公演会「楳山節考」、文学散歩等を実施

2 常設展・特設展

(1) 常設展

第1室～第4室

作家の愛用品

作家と家族

八木義徳 生誕100年

檀一雄 生誕100年

第5室

前期

後期

小説・評論・随筆・翻訳・ジャーナリズム
戯曲・脚本・童話・童謡

詩・短歌・俳句・川柳・漢詩

(2) 夏の特設展

「手紙を書こうー作家の手紙をお手本に」

会期 平成23年7月23日(土)～8月28日(日) 33日間

特設展関連事業

美術館との連携子ども向け事業(子どもワークショップで再掲)

「暑中見舞いの書き方」「絵手紙教室」「手紙に使える消しゴムスタンプづくり」など

(3) 秋の特設展

「樋口一葉 故郷への手紙」

会期 平成23年11月19日(土)～12月25日(日) 32日間

(4) 平成23年度新収蔵品展

会期 平成24年2月2日(木)～3月21日(水) 43日間

3. 教育普及事業(企画展・特設展を除く)

(1) 年間文学講座

期間	事業名	演題	講師(職名)	備考
5/19				
6/16				
7/14	文学講座1(全8回) 研修室		橋本朝生 (山梨大学 教育人間科学部教授)	
8/18	テーマ「甲州と能・狂言」			
9/15	木曜日 14:00～15:30			
10/13				
11/17				
12/15				
5/14				
6/4				
7/2	文学講座2(全8回) 研修室		小菅健一 (山梨英和大学教授)	
8/6	テーマ「「大宰治」の芸術と実生活			
9/3	ー(事実)と(真実)の間でー」			
10/8	土曜日 14:00～15:30			
11/26				
12/17				
6/23	文学講座3(全3回) 研修室		文学館職員	
10/27	山梨の文学			
12/3	木曜日 14:00～15:10			

(2) 名作映画鑑賞会

月日	題名	原作者	備考
4/24 (日)	春の企画展関連映画①「砂の器」	原作 松本清張 監督 野村芳太郎	
5/15 (日)	春の企画展関連映画② 「州崎バライダイス 赤信号」	原作 茨木好子 監督 川島雄三	
5/29 (日)	春の企画展関連映画③「細雪」	原作 谷崎潤一郎 原作 市川崑	
6/5 (日)	春の企画展関連映画④「古都」	原作 川端康成 監督 市川崑	
6/12 (日)	春の企画展関連映画⑤「彼岸花」	原作 里見弴 監督 小津安二郎	
7/16 (土)	美術館との連携事業1「ムーミンの映画」		
7/31 (日)	アニメ映画会「アンデルセン物語」		
8/21 (日)	アニメ映画会「おむすびころりん」 「おぼろげな山の月」		
9/25 (日)	「名もなく貧しく美しく」	脚本 松山善三 監督 松山善三	
10/23 (日)	「狐と狸」	原作 熊王徳平 監督 千葉泰樹	
11/27 (日)	「月山」	原作 森敦 監督 村野鐵太郎	

(3) 文学創作教室				
月日	事業名	演題	講師	備考
6/18 (土)	エッセイ教室	「エッセイ書いて人生をまるめる」	木村治美 (エッセイスト 英文学者)	
2/	俳句教室		未定	

(4) 子どもワークショップ				
月日	事業名	演題	講師	備考
7/24 (日)	暑中見舞いの書き方		IP (郵便事業株式会社) の青少年ボランティア事務局	
8/2・3 (火・水)	美術館との連携事業2 絵手紙教室		美術館教育主事 大学生	
8/未定	美術館との連携事業3 手紙に使える消しゴムスタンプづくり		IP (郵便事業株式会社) の青少年ボランティア事務局	
未定	美術館との連携事業4 絵本作家によるワークショップ		(絵本作家)	

(5) 朗読公演会				
月日	事業名	演題	講師	参加者数
5/28 (土)	お話の森朗読会①		溝口朗読サークル	
7/23 (土)	お話の森朗読会②		清水章子	
11/6 (日)	朗読公演会「楢山節考」		劇団芸協	

(6) 学習ガイド
県出身又はゆかりの文豪、作品についての学習資料集を作成し、小・中・高等学校、各市町村立図書館等に配付したり、文学教室で活用する。平成23年度は、芥川龍之介の作品と生涯についての資料集を作成する。また、楽しみながら展示を理解できるように、ガイドブックや展示クイズを作成し活用する。

(7) ジュニアインターンシップ (職場体験学習)
中・高校生の職業観・勤労観育成するとともに、将来、自らの進路を自分自身で選択できる能力育成のため、職場見学やジュニアインターンシップを積極的に受け入れる。

(8) 文学教室・解説
小・中・高校生向けには、国語科・総合的な学習の時間などの学習内容に合わせた解説。各種団体や一般向けには、時間設定や内容等の要望に応じて、文学教室や解説を行う。

(9) 講師派遣事業
小・中・高等学校や市町村、各種団体等の講師派遣要請に応える

4. やまなし文学賞
平成23年度は、第20回を募集する。

平成22年度 閲覧室資料紹介

- 1 目的 所蔵資料を紹介・展示することにより、利用者が直接手に取って利用できる資料を増やし、魅力ある閲覧室づくりを行う。また、閲覧室の機能の理解と利用促進及び資料収集の推進を図ることを目的とする。

- 2 場所 閲覧室

- 3 対象 一般県民

- 4 内容

展示名及び概要	展示期間
「明星」創刊110周年 「明星」は1900(明治33)年に与謝野鉄幹が主宰となって刊行された。短歌、詩、小説、翻訳、美術など幅広い分野にわたる雑誌で、与謝野晶子、高村光太郎、石川啄木、木下木太郎、北原白秋らを輩出した。創刊110周年にあたり、「明星」、ゆかりの作家たちの著作を紹介する。	平成22年4月13日(火) ～ 7月4日(日)
親子で読む名作 「お母さん童話」の創始者・徳永寿美子、『赤毛のアシ』を翻訳した村岡花子、『月夜の詩人』吉川行雄など、山梨ゆかりの児童文学作家は少なくない。ほかに、藤井樹郎、太田黒克彦、小野政方らの著作から、親子で楽しめる名作を紹介する	平成22年7月6日(火) ～ 9月17日(金)
井伏鱒二の世界 作家・井伏鱒二は「山椒魚」「黒い雨」など数々の名作を世に送り出してきた。山梨へは生涯を通じて頻繁に訪れて親しみ、随筆や小説にその風土を描いている。企画展に併せ、井伏鱒二の著作や関連資料を紹介する。	平成22年9月18日(土) ～ 12月12日(日)
新田次郎一歿後30年— 1932(昭和7)年から1937(昭和12)年まで、冬の富士観測所で過ごした新田次郎は、その経験から『強力伝』を執筆、第34回直木賞を受賞した。新田次郎の山岳小説や、『武田信玄』(吉川英治文学賞)などの歴史小説、併せて家族の著作も紹介する。	平成22年12月14日(火) ～ 平成23年4月17日(日)

平成22年度 文学者の命日にちなんだ資料紹介

本県出身・ゆかりの文学者を身近に感じてもらうことを目的として、資料を紹介する。来館者の目につくところに案内掲示を設置し、閲覧室への誘導をはかる。

展 示 名	展 示 期 間
奈良枝 (5/22ナビ忌)	平成22年5月1日(土)～5月23日(日)
大宰治 (6/19桜桃忌)	平成22年6月4日(金)～6月27日(日)
芥川龍之介 (7/24河童忌)	平成22年7月14日(水)～7月25日(日)
飯田蛇笏 (10/3蛇笏忌)	平成22年9月17日(金)～10月12日(火)
樋口一葉 (11/23一葉忌)	平成22年11月12日(金)～11月28日(日)
山本周五郎 (2/14周五郎忌)	平成23年2月4日(金)～2月25日(金)

平成22年度 企画展関連資料紹介

展 示 名	展 示 期 間
春の企画展 山崎方代展関連資料	平成22年5月1日(土)～6月27日(日)
両館共同特別展 くじらぐもからチツクタツクまで 関連資料	平成22年7月25日(日)～8月29日(日)

【閲覧室利用統計】
閲覧室利用状況(内訳)

	印刷白紙	入室者	閲覧コーナー 採書行数	閲覧者 回数	閲覧冊数	閲覧相 談	電子式 採書枚数	マイク 採書枚数	図録 回数	資料紹介 冊数	HP アクセス 件数
平成18年度	311	8,869	121	320	2,264	608	5,945	52	947	284	32,452
平成19年度	311	8,086	124	418	3,792	420	8,403	2	1,036	312	31,005
平成20年度	307	8,981	111	375	1,877	616	7,912	113	703	418	29,435
平成21年度	307	7,740	109	407	2,021	488	4,823	105	600	400	35,108
平成22年度	258	7,451	85	401	2,185	431	3,087	103	646	401	26,872

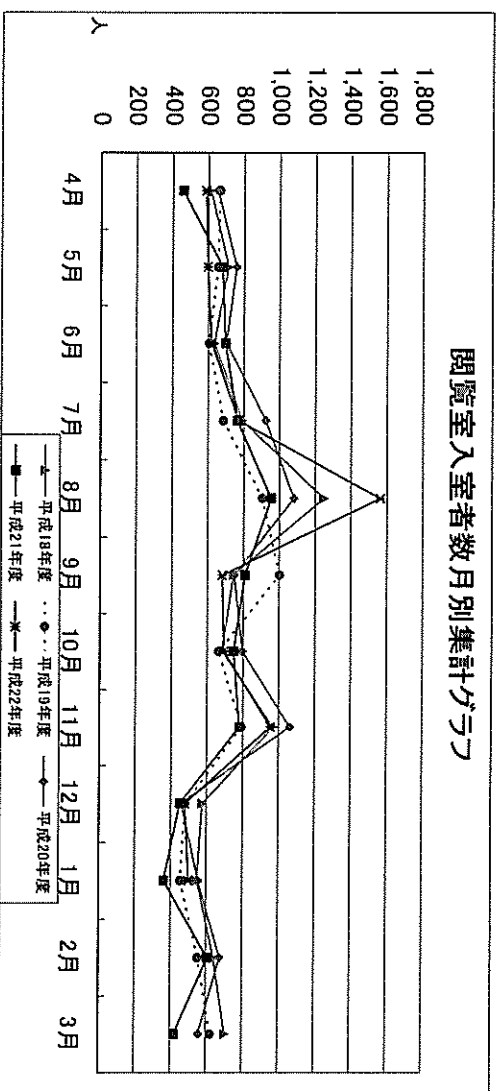
(H23.1.31現在)

閲覧室入室者(月別)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	1日平均入室者数
平成18年度	612	713	634	791	1,249	745	684	971	576	548	641	705	8,869	29
平成19年度	603	653	603	685	904	1,001	662	791	479	453	552	622	8,086	26
平成20年度	653	758	703	924	1,082	750	797	1,064	460	555	677	558	8,981	29
平成21年度	459	680	698	765	955	811	748	781	451	383	607	422	7,740	25
平成22年度	586	597	620	771	1,565	683	694	955	479	501			7,451	29

単位:人

(H23.1.31現在)



ホームページアクセス件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	1日平均アクセス件数
平成18年度	2,315	2,564	2,512	2,620	3,020	2,745	3,080	2,700	2,152	2,576	3,037	3,131	32,452	104
平成19年度	2,459	2,799	3,105	2,623	2,538	2,363	3,127	2,549	2,239	2,197	2,688	2,218	31,005	100
平成20年度	2,444	2,689	2,343	2,744	2,620	2,271	2,692	2,542	1,871	2,159	2,670	2,390	29,435	96
平成21年度	2,783	4,094	3,967	2,949	2,724	2,677	2,806	3,015	2,019	2,337	2,759	2,978	35,108	96
平成22年度	2,551	2,650	2,669	2,684	2,678	2,469	3,359	3,032	2,167	2,613			26,872	88

(H23.1.31現在)

*平成20年度までは 合計/閲覧回数=1日平均アクセス数。平成21年度から 合計/年間回数=1日平均アクセス数。

複写枚数(マイクも含む)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	1日平均枚数
平成18年度	288	475	530	475	272	759	142	382	513	366	1,078	717	5,997	19
平成19年度	1,729	1,343	943	308	390	773	709	681	614	228	365	322	8,405	27
平成20年度	282	2,418	269	785	752	444	503	787	747	322	419	297	8,025	26
平成21年度	444	283	640	523	613	248	902	330	289	76	225	155	4,728	15
平成22年度	398	316	324	315	140	134	513	564	251	235			3,190	12

(H23.1.31現在)

調査相談(口頭・電話・手紙・FAX・メール)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	1日平均件数
平成18年度	49	74	49	40	50	52	44	54	39	38	53	66	608	2
平成19年度	34	31	29	28	51	28	40	33	31	29	35	51	420	1
平成20年度	67	61	54	62	36	48	61	60	37	41	36	53	616	2
平成21年度	47	41	45	47	43	42	47	45	24	25	42	40	488	2
平成22年度	97	56	39	41	47	29	42	32	24	24			431	2

(H23.1.31現在)

平成23年度閲覧室事業計画

◇閲覧室資料紹介

所蔵資料を紹介・展示することにより、利用者が直接手に取って利用できる資料を増やし、開かれた文学館のイメージの定着と閲覧室の活性化を図る。また、閲覧室の機能の理解と利用促進および資料収集の推進を図ることを目的とする。

展示名及び概要	展示期間
映画に魅せられた作家たち 春の企画展「文芸映画のたのしみ」に併せ、多くの映画に原作が取り上げられてきた、谷崎潤一郎・泉鏡花・川端康成・三島由紀夫らの著作や関連資料を紹介する。また、映画評論を執筆した作家の資料も併せて紹介する。	平成23年4月29日(金) ～ 6月19日(日)
文豪からのおくりものー子どもたちへー 芥川龍之介らの文学者が、子どもたちのために著した作品を紹介する。併せて、『蜘蛛の糸』を始め、多くの名作が掲載された「赤い鳥」などの児童雑誌も紹介する。	平成23年7月8日(金) ～ 8月31日(水)
深沢七郎の世界 笛吹市石和町出身の作家・深沢七郎のデビューは42歳の時、「楢山節考」だった。以後「笛吹川」「甲州子守唄」「みちのくの人形たち」などの作品を世に送り出した。企画展に併せ、深沢七郎の作品や関連資料を紹介する。	平成23年9月10日(土) ～ 11月6日(日)
芥川賞・直木賞と山梨の作家たち 芥川賞と直木賞は昭和10年に制定、今日まで長い歴史を持つ文学賞である。山梨県出身作家では、芥川賞を小尾十三、直木賞を木々高太郎が初めて受賞した。山梨県出身・ゆかりの作家の、受賞作や候補作、関連資料を紹介する。	平成23年12月15日(木) ～ 平成24年4月15日(日)

◇文学者の誕生日にちなんだ資料紹介

本県出身・ゆかりの文学者を身近に感じてもらうことを目的として、資料を紹介する。

展 示 名	展 示 期 間
飯田蛇笏 (4/26生)	平成23年4月22日(金)～5月13日(金)
山本周五郎 (6/22生)	平成23年6月3日(金)～6月24日(金)
飯田龍太 (7/10生)	平成23年7月6日(水)～7月27日(水)
辻邦生 (9/24生)	平成23年9月7日(水)～9月28日(水)
山崎方代 (11/1生)	平成23年10月28日(金)～11月20日(日)
中村星湖 (2/11生)	平成24年1月25日(水)～2月15日(水)
芥川龍之介 (3/1生)	平成24年2月23日(木)～3月15日(水)

◇県立美術館特別展開連資料紹介

県立美術館特別展開催に併せ、関連資料を紹介する。美術館から文学館への誘客を図り、展示内容への理解・関心をさらに深める機会とする。

展 示 名	展 示 期 間
川端康成の世界	平成23年9月17日(土)～11月6日(日)
浅川伯教・巧兄弟	平成23年11月19日(土)～12月25日(日)

◇書庫見学

職員が書庫内を案内し、収蔵資料、保管状況などを解説し、文学館の役割や閲覧室の利用方法の周知を図る。

第1回 平成23年 6月18日(土)
第2回 同 11月20日(日) 県民の日
午前・午後各1回
内容：書庫見学、画像情報システム端末・文学館検索システム端末操作説明、
当館作成のビデオのビデオゾーンで視聴